

患者さんへ

臨床研究に関する情報

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、病理診断後、当院に保管されている検体を用いて行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年3月23日）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] GeoMX を用いた血栓性微小血管症の臨床病理学的解析

[研究代表者名・所属] 市立札幌病院 病理診断科 辻 隆裕

[研究の背景と目的]

血栓性微小血管障害症（TMA）は、赤血球の破壊、血小板数の減少、臓器の血栓症を特徴とする病気です。代表的な疾患には、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）と溶血性尿毒症症候群（HUS）がありますが、移植後に発症する移植後 TMA や、膠原病に関連した抗リン脂質抗体症候群腎症なども存在します。近年、高齢化と悪性腫瘍患者の増加に伴い、薬物などによる二次性 TMA の頻度が増加しています。どの病態でも、腎臓の糸球体の内皮細胞の損傷が見られ、これが主要な原因です。しかし、この病変の原因を特定するのは難しいため、現在の治療は症状を和らげる対症療法が主流で、病因に基づく治療方法はまだ確立されていない状況です。

最近、注目されている「空間的 transcriptome 解析」という技術を使うと、組織内で遺伝子の発現パターンがどの場所にどのように分布しているかを調べることができます。空間的 transcriptome 解析の中でも、GeoMX という新しい機械を使うと、組織内の特定の領域（細胞数百個程度）を取り出し、その中の遺伝子発現を調べることができます。具体的には、当院で保存されている TMA 患者の組織サンプルを使い、移植後 TMA、抗リン脂質抗体症候群腎症、VEGF 阻害剤による薬物性 TMA などの症例を調査対象とします。これらのサンプルを特別なスライドに取り付け、遺伝子抽出と解析を専門機関に委託します。この研究を通じて、異なる病因に関連した特有の遺伝子発現パターンを特定し、病理学的 TMA の原因を明らかにすることを目指しています。この研究が成功すれば、病理学的 TMA の診断が病理組織だけで行えるようになり、新しい治療法の開発や特定の治療法の選択肢が広がり、病理学的 TMA の治療成績が向上する可能性があります。

[研究の方法]

1. 対象となる患者さん

当院で2010年4月1日～2024年3月31日の間に当院で市立札幌病院 病理診断科で病理組織学的に TMA と診断された患者さん

2. 利用する情報

- ・患者背景：性別、年齢、合併疾患の有無
- ・血液検査の結果、画像検査の結果
- ・GeoMX で得られた糸球体病変の遺伝子転写産物と蛋白質の情報（ゲノム DNA の遺伝子情報の取得は行いません）

3. 利用するその他の試料

- ・診断に際し使用した検体の残余（パラフィンブロック検体）
（過去に診断目的に採取され、検査 終了後から現在まで当院で保存されているものを用いらさせていただきます。）
- ・病理プレパラート

[研究実施期間]

実施許可日～2027 年 3 月 31 日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

*上記の研究に検体・情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[当院の連絡窓口]

〒060-8604 札幌市中央区北 11 条西 13 丁目 1-1
市立札幌病院 病理診断科 辻 隆裕
電話：011-726-2211 FAX：011-726-9541